

平成30年2月6日

部会報「文芸」

より自由に、より創造的に創作活動を

文芸部会長 今井 智幸

昨年度は部会長として、県南支部でソフトボール、登山、演劇、全県で郷土芸能・日本音楽に携わりました。どれもこれまで関わったことがなく、戸惑ってしまうことがありました。登山では、山菜採りをわずかに体験したことがあるぐらいの私にとって、初めての栗駒山は、その開会式の会場がピンと来ません。場所が場所だけに車のナビも役に立ちません。周囲に全く人気のない場所で、栗駒山の雄大な山容を前に途方に暮れてしまったことがありました。また、最初の頃は、郷土芸能といっても高校生がどのように多彩な活動を行っているのか見当が付きません。ここ秋田が重要無形民族文化財で全国で最多を誇るその詳細さえ、よく分かっていませんでした。

確かに部活動は、自主性、協調性、責任感、連帯感、探究心、創造性等を育成することを目的にしています。ただ、炎天下の中、勝利を目指して最後の一球まで戦い抜く選手たち、大会中の豪雨で健康が懸念された後でも、登山への情熱を失わない登山部員たち、総合芸術としての演劇の難しさ、奥深さ、楽しさを体現していた演劇部員たち、伝承が生命線である郷土芸能を確かに受け継ぎ、次の世代へと伝える未来の後継者たち……そんな高校生たちの姿に、若き生命の輝きとでも言い表したくなるような思いを感じたのも事実です。

文芸部会は日本語の力と表現の可能性について関心を喚起し、文芸創作活動の振興・向上を図ることを目的としています。いわばネットの村祭りの熱狂といった空間とは一線を画す、伝統的でクールな言語活動の場です。歴史や伝統を持つからこそ、逆により創造的で自由に満ちた創作が行われ、広く正当な鑑賞がなされます。

生徒の皆さんが、創作意欲を喚起される動機は様々でしょう。生きづらさを乗り越え、自分らしく生きるため、溢れる創作意欲に突き動かされて、時代や社会の空気感への違和感を乗り越えたくて、日々の生活での新しい発見の瞬間を切り取りたくて……。

文芸部員の皆さんが、より自由に、より創造的に創作活動に取り組み、若者らしいみずみずしい感性と知性で、文芸部会を多様で豊かな空間にしてくれることを期待しています。